

「2018年のふたご座流星群観測(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

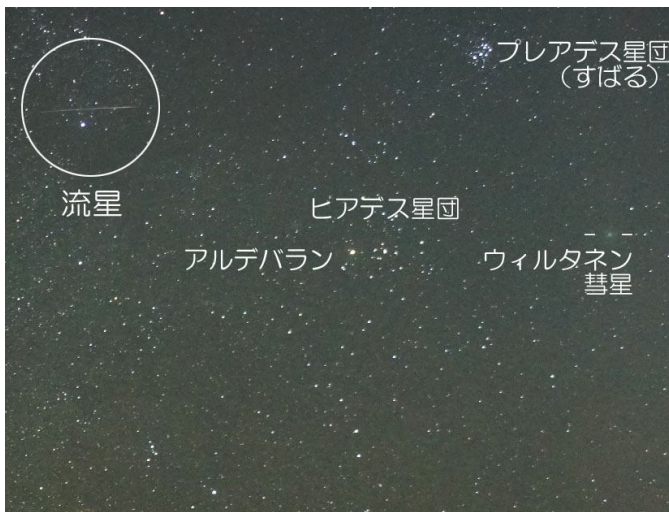
田中 千尋 Chihiro Tanaka

※写真はすべてスウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス村撮影(東京からの遠隔観測/2018, 12, 13~15)

ふたご群の流星は、しし群のように地上を一瞬照らすような爆発的な火球も少ないし、個々の流星の明るさも、際立って明るいわけではない。しかし、飛ぶ範囲は広範で、さまざまな星座の近くを流星が飛ぶ。



これは、おうし座の近くに飛んだふたご群の流星である。あまり明るくないが、左上にふたご座の方向(東)から右(南)に向かって飛んでいる。



流星以外にも、プレアデス星団(すばる)、おうし座のヒアデス、一等星のアルデバランが写っている。しかもプレアデスの左下には、4等級台まで増光した「ウィルタネン彗星」も写っていた。今年の今の時期にしか得られない、貴重な写真と言える。



これは、ペガサス座の真ん中を飛ぶ、ふたご群の流星である。ペガサスは「秋の大四角」と呼ばれる通り、秋の星座で、ふたご座からは遠く離れている。しかしその真ん中を流星が飛んでいる。右下には薄いオーロラも写っている。



こちらは夏の星座の「かんむり座」に突入する、ふたご群の流星である。構図が美しいと思う。



春の星座「しし座」の心臓を貫くように飛んだ流星。ふたご座に近いので、より「観測者に向かって」飛ぶ。